

津みらい

たなか かずよし  
田中 千福

録画映像



## 問 農業の地域計画の進捗状況について問う

地域計画は、将来の農地利用の姿を明確化した設計図で、概ね10年後を見据え、誰がどのように農地を使って農業を進めていくのかを、農業者や地域の方々の話し合いに基づきまとめる計画であり、農業を中心とした地域全体の発展を促進するための戦略を練る重要な枠組みとして機能しているが、津市における進捗状況はどのようになっているのか。

## 答 2月末現在において、5地区で策定が完了している

2月末現在、市内の104地区にて地域計画を策定することとしており、地域の代表者と策定に向けた協議を行っている。

なお、このうち、人・農地プランが作成されている76地区においては優先的に取り組みを進めており、令和5年10月24日に津地域の一身田平野地区および芸濃地域の多門地区において、三重県下では初となる地域計画を策定した。その後、津地域の小舟地区、河芸地域の中瀬地区、芸濃地域の林地区においても策定し、2月末時点において合計5地区で策定が完了している。

### その他の質疑・質問

- 「くらし応援 津市プレミアム付商品券2023」について
- 高齢者外出支援事業「シルバーエミカ」について
- 国道163号片田バイパスについて
  - 3工区の工事の進捗状況は
  - 1工区の事業着手の時期は

など

▶ 地域計画の下で管理されている優良農地



つし そうせい  
津市創成

やまじ さゆり  
山路小百合

録画映像



## 問 人命救助の実働部隊、自衛隊、警察等各支援団体との連携は

令和6年能登半島地震を経て、被災地で何より最優先すべきは人命救助だ。人命救助の実働部隊、自衛隊、警察等各支援団体との連携についての全体的な取り組みを危機管理部に問う。

また、現地に入って経験したことをどのように捉え、今後に生かすのかを消防本部に問う。

## 答 大規模災害時に速やかに連携できるよう受援体制を強化する

津市では自衛隊、警察等の関係機関の応援や他の自治体からの人的支援等に係る受入手順、活動拠点となる場所等を定め、迅速かつ円滑に受援できるように取り組んでいる。今回の能登半島地震を踏まえ、改めて受援体制の検証を行い、令和6年度には災害時受援体制整備事業に取り組んでいく。

現地では各救助機関とスムーズに連携できたが、災害時における連携をさらに強化するため、定期的に合同訓練を実施している。南海トラフ地震等の大規模災害が発生した場合でも速やかに連携できるように、今後も継続して訓練に取り組み、受援体制の強化に努めていく。

### その他の質疑・質問

- 津市大門・丸之内地区未来ビジョンについて
- 三重県指定史跡津城跡整備活用計画について
- 能登半島地震を経て職員派遣で得られたことは
- 保育士志望者を増加させるためには
- 多胎児・多子世帯支援のヘルパー等利用について

など

▶ 多胎児・多子育児や、ワンオペ育児に悲鳴を上げる保護者

